

学校運営協議会議事録

校 名	府立槻の木高等学校
校 長 名	無津呂 弘之

開 催 日 時	令和4年6月18日(土) 10:00 ~ 11:00
開 催 場 所	本校 3F 記念室
出席者(委員)	野上朋美 会長、安田信彦 副会長、浅野良一 委員、田中隆夫 委員 宮坂政宏 委員、山本冬彦 委員
傍 聴 者	浅野委員の勤務先(兵庫教育大学)から、現職教員の大学院生2名
協 議 資 料	校長、教頭、事務長
備 考	

議 題 等 ( 次 第 順 )	
(1)	"会長及び副会長の承認
(2)	令和4年度 学校の状況説明
(3)	令和4年度 学校経営計画及び学校評価について
(4)	質疑・応答
協 議 内 容 ・ 承 認 事 項 等 ( 意 見 の 概 要 )	
(1)	本校PTA会長の野上朋美委員に会長を 高槻市立第一中学校校長の安田信彦に副会長に就任 に対して、了承された。
(2)	校長 本年度は土曜講習、学校説明会を従来通り行っている。 5月13日に3学年とも校外学習を実施(3年生:神戸 2年生:京都 1年生:万 博記念公園)。 5月26日 体育大会を1日行事として実施。全学年の保護者は各家庭1名の参観を 許可し、保護者が学校行事に参加したのは3年ぶりとなった。昨年度も体育大会は実 施したが、保護者の参観は不可。かつ、午前中のみの実施だった。 今後は守りから攻めへ変えていきたい。感染症対策の工夫をしながら、従来の形で学 校行事を行っていきたい。

野上 学校行事に参加する機会がなかなかなかったもので、保護者としても子どもの様子が見ることができていい機会だった。

すべての保護者に見ていただく機会は少ないですが、生徒の様子を見てもらうことが保護者も学校を好きなるきっかけになるので増やしてほしいので検討してほしい。

(3) 校長 **【めざす学校像】**

標記は変えているが、令和3年度の学校経営計画から趣旨は変えていない。本年度、大阪府立高校ではスクールミッション策定を進めていく。令和6年度までには3つのポリシーを完成させて府民にも示していく。今後、教員研修を通して、職員とともに検討していく。

本校のスクールモットー「あたり前なことをあたり前に」「原石を宝石に」「受験は団体戦」を大事にしてきた。これからも維持していく。スクールモットーについては、教職員も理解しているが、毎年入れ替わっていくので今後も意識の徹底を行っていく。

土曜講習 生徒、保護者の期待が高い。1年生は9割近くの生徒が参加しているが、教員は勤務日ではないので先生方の協力がないと実施できない。教職員に講習の意義を説明し環境を整備していくことを第一としている。

**【進学実績について】**

令和3年度は、国公立34名（15%）関関同立は114名を超える数、産近甲龍151名が合格した。入学してからの生徒の伸びしろは非常に高い。7時間授業や土曜講習、1日勉強会の成果だと考えている。 ※ 私立の合格者は延べ人数

**【「NEXT STAGE」について】**

大学に行って大学の講義を受けたり、企業にて企業の方の話や聞く等、あるいは海外の高校との交流を通して、人間力の向上を図る。昨年度まで新型コロナウイルスの影響もあり、すべてが未実施となった。昨年は大阪府立大学（現：大阪公立大学）12月に実施。大学の学部や大学院の講義に参加。講義の中で協議も行った。

令和4年度は大阪公立大学（6月実施）、神戸大学（10月）にそれぞれ講義に参加する予定。生徒の満足度も100%近い。

韓国の姉妹校とも年明けに交流を再開させたいと考えている。台湾の高校とWebで交流が始まった。今後は現地での交流ができればと考えている。

**【豊かな人間性について】**

「規範なくして学力の向上なし」規律をしっかり維持していく。

例えば授業が始まる時の挨拶を大事にしている。田中委員からの助言にもあった廊下等ですれ違った際の挨拶も徹底している。生徒も自然とできるようになっている。本校生徒は制服を着崩すことや頭髪指導が必要な生徒は皆無であるが、緩めることなく今後も徹底していく。

**【生徒1人1台端末及びICTの活用について】**

大阪府教育委員会では生徒1人1台端末を渡している。本校はほぼすべての教室に短焦点プロジェクターが導入されほとんどの教員が活用できる。

新型コロナウイルス感染症により登校できない生徒については、授業中継（双方向の授業は行っていない）を家庭で受講できるようにしている。一斉休校になったときは同時双方向の授業も考えていかなければならない。

**【地域社会から信頼される学校づくりについて】**

本校の取組について、地域の方々や中学生に知ってもらう必要がある。

これだけ進学実績があり、地域からも信頼されているが、志願倍率が上がらない。令和4年度選抜の結果は240名定員のところ285名の志望があったが、令和3年度入試は249名の志望にとどまり、危機感をもっている。積極的に本校の取組をアピールするためにHPのブログによる発信を行っている。毎日200回の閲覧がある。学校説明会も10回近く行っている。学校全体で協力して実施している。

「同僚性の発揮」「隙間仕事を見つける」「コミュニケーションをとる」このことを教職員にお願いしている。

**【働き方改革・公務の効率化について】**

ON・OFFの切り替えをお願いしている。責任感の強い教員が多いので、働きすぎにならないように調整していく。

- (4) Q 学習指導要領が変わり、課題研究、探究活動についてどのように考えているか。
- A 探究については、2・3年生で実施。2年生ではテーマを設定し、自分がやりたいことを選んで取り組んでいる。
- Q 昔のAO入試のようなものに、自分たちが課題研究したものを入試で活用して合格するような生徒はいるのか。
- A そこまではできていない。
- Q 1人1台端末について、どのように活用を考えているか。
- A 本校ではchromebookを生徒に配布している。教員には4月下旬に配付している。運用については、学校で保管するのではなく、各自で管理をする形をとっている。授業での活用では課題の提出や調べ学習やアンケートの実施に活用されている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により登校できない生徒はchromebookを活用して授業中継を行っている。
- Q 端末についてはどこが管理をしているのか。
- A 学校運営室の情報課が端末について、情報管理もしくは機器の故障についての対応を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響により登校できない生徒の対応も情報課が行っている。

- 意見 学力向上のために「主体的な学び」を進めてほしい。「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」や質問と自習。質問というのは学んだことを主体的に考え、疑問に思ったことやわからないことを明確化し教員や友人に聞くことで明らかにしていく。学びのサイクルを大事にしていくことと授業中のいい質問を取り入れることで、自律的な学びにつながっていく。探究学習の中でも取り組んでいってほしい
- 校長 質問を大事にすることについて  
職員室の前に机とホワイトボードがあり、放課後に質問を受けるスペースを設けている。  
教員は生徒に対してマンツーマンで対応している。
- 意見 府立学校の HP について、キャッチフレーズやデザインについては昔に比べると格段に良くなっている。そして、メッセージ性も強くなっている。ただし、見たい情報がすぐに見れない学校も存在する。情報を上げればいいのではなく意義や優先順位を大事にしてほしい。
- 意見 働き方改革について、国立大学や私立大学はミッションを再定義しているが、府立高校でもミッションを作成するにあたって、教員がやりがいをもって、熱意をもって、協同して、高い規範意識をもって教育していく学校。そして、教員の頑張りを見える化していくことが大事。その結果、教員は大変だけどやりがいを感じることができる
- Q 働き方改革  
部活動の現状と課題についてはどうか。
- A 時間外在校時間が「80 時間超え」「100 時間超え」の教員は複数名いる。その主たる要因は部活動である。熱心な顧問は土日でも指導に当たっているためにすぐに 80 時間を超えてしまう。校長からは「健康に気を付けてほしい」と声掛けをしているが、教員は生徒のために頑張りたいと考えている。
- 意見 問題は簡単に解決されないと思うので、先生方とじっくり考えてほしい。
- Q 教員の授業力向上のための教員相互の授業見学の頻度はどのくらいか。
- A 前期・後期を通して年度初めに研究授業の担当教員を指名している。研究授業を行い、研究討議をし、総括を職員会議で発表をしている。授業見学に来る教員は 7、8 名いる。取りまとめは学校運営室で行っている。
- 意見 高槻の中学校教員は年齢層の高い教員が退職し、20 代・30 代の教員が 6～7 割くらいを占めている。高槻の小中学校の教育において、ここからの 10 年の教育が非常に重要となってくる。教員の授業力は互いに「見る」「見られる」関係がないと向上しない。見られる機会をどれだけ増やしていくかが大事になってくる。  
これから、中高の接続が大事になってくる。中学校の学びをベースに高校で授業を行ったり、中学校の知識を高校で使うことになる。高校の教員は中学校で学んだことを踏まえて授業を計画するので、中学校の教員と高校の教員が互いに授業を見る機会を増やしたい。

意見 総合的な探究の時間を大事になっている。理数探究の教科書を見たときに、探究の授業のやり方も含めて、書かれていたので、こういったこと学ぶベースを中学校で付けさせないといけないと考えているので、槻の木高校の総合的な探究の時間で作成した成果の発表会を中学生にも見る機会を設けていただきたい。そのことで地域から信頼される学校にもつながっていくのではないかと考える。

この地域は中核市の中心にあって歴史文化もたくさんある。役所には行政計画があり、これからの高槻をどうしていくかという資料がたくさんある。このことがいい教材になるのではないか。この教材を探求していくことによって、高槻出身の子どもたちが高槻をもっと好きになって、高槻の未来の街を作っていく力がついていくので、中学校で取り組んでいこうと思っている。高校とも連携できればと考えている。

意見 土曜講習について

教員が生徒たちのために頑張っていて、それに生徒がこたえていく素晴らしいことだと思うが、教員の負担が心配である。いい雰囲気でされているということなのでいいことだと思う。

NEXT STAGE について

身近にあることなので、いろいろな経験を得られるチャンスなので積極的に取り入れてほしい。大学や企業だけではなく、高槻の歴史や文化も取り入れてほしい。

意見 保護者の立場として

槻の木の生徒は目をみて挨拶をしてくれるので嬉しくなる。

NEXT STAGE について

大阪公立大学に PTA の社会見学として保護者が 20 名ほど参加する。生徒たちがどのような授業を受けるのかということを見ることによって進路についていろいろと考える機会になるので感謝している。

神戸大学にも社会見学できればと思っている。検討をお願いします。

HP について

校長先生のブログを生徒もよく見ている。自分の学校の HP がどうなっているか気になっている生徒もいる。

生徒同士の勉強の教え合う習慣もあるので、そういった環境があることで生徒同士切磋琢磨できることはいいことだと思う。

#### 次回の会議日程

日時	令和4年10月22日(土) 10:00~
会場	本校 会議室